

みちのく環境だより

環境省東北地方環境事務所

http://tohoku.env.go.jp



東北地方環境事務所による環境問題への取組内容を紹介しています。

◇ がれきアート「旅するくじら」

○3県(岩手県、宮城県、福島県)の沿岸市町村の処理状況(平成25年2月末現在)

	災害廃棄物等推計(万t)	災害廃棄物					津波堆積物					仮置場設置数
		推計量(万t)	処理			推計量(万t)	処理					
			量(万t)	割合(%)	中間目標(%)		量(万t)	割合(%)	中間目標(%)			
岩手県	525	366	159(142)	44(39)	58	159	16(14)	10(9)	50	62		
宮城県	1,830	1,103	621(563)	56(51)	59	728	210(171)	29(24)	40	90		
福島県	315	161	56(49)	35(31)	—	153	3(3)	2(2)	—	30		
合計	2,670	1,630	836(754)	51(46)	—	1,040	229(189)	22(18)	—	182		

※福島県の汚染廃棄物対策地域(国直轄処理地域)を除く。 ※()内は平成25年1月末の数値。

○岩手県・宮城県の沿岸市町村の災害廃棄物等の種類別処理状況(平成25年2月末現在)

	可燃物・木くず			不燃混合物(漁具・漁網含む)			コンクリートくず・金属くず			災害廃棄物合計			津波堆積物		
	推計量	処理量	処理割合	推計量	処理量	処理割合	推計量	処理量	処理割合	推計量	処理量	処理割合	推計量	処理量	処理割合
岩手県	83	36(33)	43%(39)	107	28(24)	26%(22)	176	95(85)	54%(49)	366	159(142)	44%(39)	159	16(14)	10%(9)
宮城県	239	135(124)	56%(52)	333	92(72)	28%(22)	531	393(367)	74%(69)	1,103	620(563)	56%(51)	728	210(171)	29%(24)
2県合計	322	170(157)	53%(49)	440	120(96)	27%(22)	707	489(452)	69%(64)	1,468	779(705)	53%(48)	887	226(186)	25%(21)

※()内は平成25年1月末の数値。

岩手県・宮城県両県の災害廃棄物等の種類ごとの進捗状況は、可燃物・木くずの処理割合が53%、コンクリートくず・金属くずは69%と順調に進んでおります。他方、不燃混合物や津波堆積物については、処理割合がそれぞれ27%、25%となっており、処理が十分に進んでおらず、加速化が必要な状況です。

不燃混合物、津波堆積物については、最大限再生資材として活用するために、処理施設の整備を進め、処理・再生資材化の加速を図るとともに、国等の実施する公共工事での利用を促進

環境省では、3月22日に最新の「災害廃棄物処理の進捗状況(3県沿岸市町村)」を発表しました。特に甚大な被害を受けた3県沿岸市町村の災害廃棄物処理の進捗状況は、岩手県44%、宮城県56%、福島県35%となっております。

田中環境副大臣、宮城県及び岩手県を訪問
田中環境副大臣が、3月6日から7日にかけて宮城・岩手両県を訪問しました。宮城県では東松島市の仮置場や石巻市の中間処理施設などを視察し、作業の様子や進捗状況を確認しました。岩手県では達増知事と面会し、今後の災害廃棄物処理の支援や対策について会談しました。その後、宮古を訪問し、災害廃棄物の再生利用の様子や沿岸地域の状況を視察しました。また、6日に南三陸町、7日に宮古市で開催された、東日本大震災で発生したがれきを素材として使ったアート作品「旅するくじら」(巻頭写真参照)の記念式典に出席しました。

岩手・宮城両県の災害廃棄物等の種類ごとの進捗状況は、可燃物・木くずの処理割合が53%、コンクリートくず・金属くずは69%と順調に進んでおります。他方、不燃混合物や津波堆積物については、処理割合がそれぞれ27%、25%となっており、処理が十分に進んでおらず、加速化が必要な状況です。

両県とも、県内処理体制の整備等は進んでおり、平成26年3月までに処理可能と見込まれていますが、着実な目標達成に向けて、処理先・再生利用先の確保を進めます。

東日本大震災から2年が経過し、大量に発生したがれきの処理も徐々に進んでおります。ここでは、がれき処理をめぐる近況を報告いたします。

災害廃棄物処理の進捗状況(概要)

※広域処理情報サイトについては、以下のアドレスよりご覧になれます。

<http://kouikishori.env.go.jp/news/index.html#news121116>

宮城県利府町は、1月末でがれき処理が完了しました。3県沿岸市町村で、最も早く災害廃棄物の処理を完了した自治体となります。町では、約1万9千トンのがれきを処理しました。これまで、震災がれきを集積していた町内の仮置場は、撤去後、漁港用地や保育園用地等として活用されます。

宮城県利府町で がれき処理完了

利府町における仮置場解消事例

○利府町赤沼字浜田地区 一次仮置場



使用中の仮置場（23.4.12撮影）
町内から撤去された震災がれきを
仮置場へ集積



震災がれき撤去後（25.2.15撮影）
再生資材置場として使用中

○利府町赤沼字須賀地区 一次仮置場



使用中の仮置場（23.4.14撮影）
畳などが集積されている



震災がれき撤去後（23.5.3撮影）
漁港用地として使用中

○利府町青山 一次仮置場



使用中の仮置場（23.10.1撮影）
集積された木材を搬出している様子



撤去後（24.6.14撮影）
野球場側半分を駐車場として使用中。
北側保育園がまもなく完成予定。

グリーン復興プロジェクト みちのく潮風トレイル

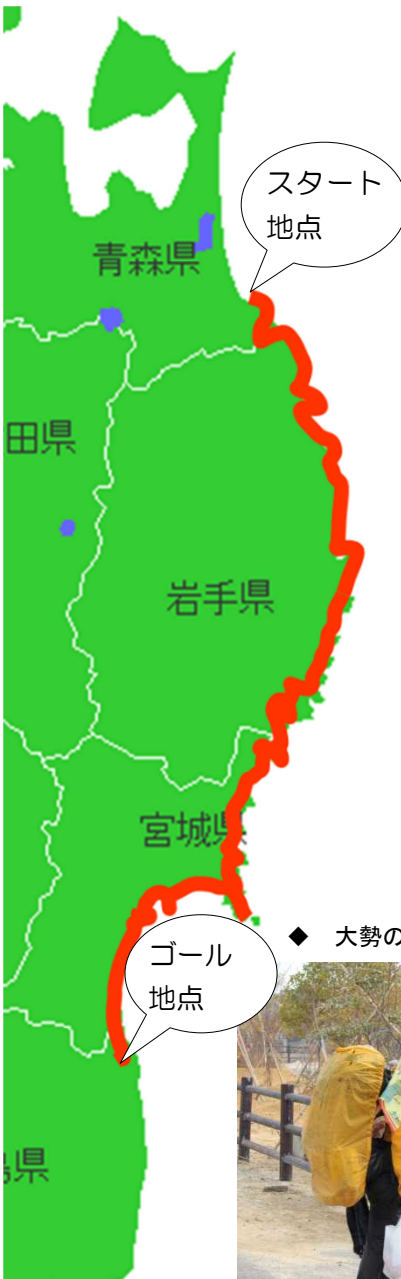
環境省が自然環境の面から復興を推進する「グリーン復興プロジェクト」の1つ、「長距離自然歩道 みちのく潮風トレイル」と、そのモニターである後藤駿介さんについて紹介します。

「みちのく潮風トレイル（旧称・東北海岸トレイル）」は青森県八戸市から福島県相馬市まで（約700km）を長距離自然歩道（ロングトレイル）でつなぎ、歩いて旅することによって、国立公園や名勝などの風景、住んでいる方々や文化とのふれあいを楽しんでもらおう、という取り組みです。

このトレイルを、モニターとして歩いたのが後藤駿介さん（早稲田大学の3年生）です。12月に八戸市を出発し、出会っ



◆ 金華山黄金山神社前にて



スタート地点

ゴール地点

◆ 大勢のファンの出迎え



た人、食べ物、風景、感じたことを公式ホームページのブログで報告してきました。これまでの道中では、せんべい汁や、まめぶ汁など美味しい郷土料理を食べ、「漁師のおっちゃん」や「工事現場のおっちゃん」に親切にされ、倒壊した防潮堤や更地のようになった住宅街に心を痛め、被災して大変な思いをされている人たちに逆に励まされるなど、たくさんの出来事がありました。3月16日にはゴール地点の福島県相馬市に到着し

ています。環境省では、このような様々な出会いやつながりが芽生えるトレイルを、地域の皆さんと共に作り上げていきます。

第1回アジア国立公園会議

告知

環境省と国際自然保護連合（以下、IUCN）は、「第1回アジア国立公園会議」を平成25年11月14日～17日に国内外から約500名の参加のもと宮城県仙台市で開催します。

本会議は、人と自然、人と人、保護地域と保護地域の外部をつなぐ、という趣旨を込めて「国立公園がつなぐ（parks connect）」というテーマで、アジア各国の行政官や専門家などが発表し、話し合います。なお、会議で発表する企業・NGO等を募集する予定です。詳しくは、公式ホームページ（<http://asia-parks.org/>）で発表されますのでご覧下さい。

運営委員会

アジア国立公園会議開催に先立ち、運営委員会を2月27日に仙台市で開催しました。

運営委員会では熊谷嘉隆委員長（国際教養大学教授）以下各国から集まった7名の委員により、会議のプログラム内容等について話し合われました。

運営委員会の後、委員らは宮城県と仙台市に表敬訪問し、また、仙台市内にある蒲生干潟（国指定鳥獣保護区）等を訪れ、震災の被害や自然環境の状況を視察し、現地自然保護官の説明に聞き入っていました。

※ みちのく潮風トレイル（旧称：東北海岸トレイル）の公式ホームページは、以下のアドレスよりご覧になれます。

<http://www.tohoku-trail.go.jp/>

三陸復興・種差海岸国立公園化 推進シンポジウム

青森県八戸市の種差海岸は、今年5月に三陸復興国立公園として指定される予定です。それを受け、平成25年1月30日、八戸市が国立公園化推進シンポジウムを市民公民館ホールで開催しました。市民等約450人が参加し、種差海岸の魅力を再認識するとともに、保全や利用のあり方を模索しました。

前環境省自然環境局長の渡辺綱男氏が基調講演を行い、三陸復興国立公園の概要や「みちのく潮風トレイル」（旧称・東北海岸トレイル）に関して説明しました。

パネル討論では北海道大学の敷田麻美教授と市文化財審議委員の高橋晃氏、スポーツキャスターの荻原次晴氏、バルセロナ五輪女子水泳金メダリスト岩崎



◆ 著名人が様々な角度から意見交換

恭子氏がパネリストとして登壇し、国立公園を活用した地域づくりについて意見交換しました。それぞれの専門分野を活かし、観光資源と地域住民、利用者をつなぐ環境保全への再投資を行う仕組みづくりや、クロスカントリー導入等のスポーツツーリズムの推進、豊かな生物多様性・人と自然との共存の歴史の再認識の重要性など、違った角度からの意見が交わされました。

討論の中では「自分たちの土地に誇りを持つこと」「国立公園

白神山地世界自然遺産は20歳！ —遺産登録20周年記念—

平成5年12月に国内初の自然遺産に登録された白神山地は、今年で20年目を迎えました。遺産登録20周年にあたり、各地で様々なイベントが企画されています。

20周年キックオフフォーラムを開催

2月16日、記念イベントの第一弾が青森県弘前市で開催されました。午前には開催された「環白神地域フォーラム（環白神エコツーリズム推進協議会主催）」では、

白神山地を取り巻く各地域でがんばっている方々の取組が発表されました。山側と海側の地域での意識の違いや、豆腐作りを通して白神の恵みを伝える活動など、地域間での良い刺激にもなりました。

午後の「白神山地世界遺産登録20周年キックオフフォーラム（青森県主催）」では、IUCN日本委員会の吉田会長、白神マタギ舎ガイドの牧田氏、白神自然環

の魅力づくりへの参加」等、市民の参加と協力の必要性が聞き手へのメッセージとして送られました。今回のシンポジウム

境研究所の佐々木所長によるパネルディスカッションが行われ、ユネスコが認めた白神山地の価値や、白神の山文化や持続可能な暮らしについて紹介されました。最後にはスペシャリストとして登山家の野口健さんが登壇し、海外での体験も踏まえた話を伺いました。

20周年を機会に、白神山地の魅力を多くの方に知ってもらいたいと思います。



◆ 「世界から見た白神山地の価値と魅力」と題した野口健氏の講演

は、三陸復興国立公園への市民の関心向上、協働での国立公園づくりへのきっかけになったと感じています。

八木山動物公園 「動物セミナー＆ 園内ガイドツアー」



八木山動物公園では毎月1回、動物セミナーと園内ガイドツアーを合わせたイベントが開催されています。

本年1月に開催されたセミナーでは、仙台自然保護官事務所のアクティブレンジャーが講師を務め、「野生動物をまもるアクティブレンジャーってなあに？」をテーマに、日頃の業務の紹介を通してアクティブレンジャーの仕事についてお話ししました。

アクティブレンジャーは、自然保護官の補佐役として、国立公園や国指定鳥獣保護区のパトロール、鳥類等生息調査、利用者指導、自然解説などの業務を担う環境省の職員です。東北地方では現在、14箇所ある自然



◆ アクティブレンジャーの自然保護活動について説明（セミナー）



◆ 東北管内の自然環境を解説（アクティブレンジャー写真展）

保護官事務所のうち8箇所の自然保護官事務所に10名のアクティブレンジャーが配置されています。

セミナーでは、宮城県内にあ

る国指定鳥獣保護区（仙台海浜、伊豆沼・内沼、蕪栗沼・周辺水田、化女沼）でのパトロール、八木山動物公園及び大崎市と協働で開催している自然観察

会の活動などについて話をしました。「アクティブレンジャーってなんだろう？」、「野生生物や自然を守ることは？」などについて講師もセミナー参加者と一緒に考え意見を交わし、環境省の仕事を理解していただくことができました。

セミナー終了後は、同園ビジターセンターで開催されている「アクティブレンジャー写真展」会場において写真解説をし、業務を通じて撮影した国立公園、世界遺産、鳥獣保護区の各地域のさまざまな環境で出会った動植物や風景を紹介しました。

酒田イヌワシ・ラボ



2月1日から1ヶ月間「酒田まちなかPR館」において、猛禽類保護センター（鳥海イヌワシみらい館）と酒田市内の保護活動団体と連携して、イヌワシ等の希少猛禽類の保護啓発を目的とする、「酒田イヌワシ・ラボ」を開催しました。

会場では、イヌワシの生態やその調査方法、写真や模型、法律等のパネルを多数展示し、地元の活動団体からは、イヌワシと同様希少猛禽類であるクマタカや、鳥海山やその周辺地域の動植物について紹介していただきました。酒田市民の自然環境

への関心の高さが伺える展示会となりました。

イヌワシは、日本の森林生態系ピラミッドの頂点に位置しています。近年、開発等による環境の変化に伴い、生育環境は厳しくなっています。また、繁殖成功率が低下しており、その存続が危ぶまれています。

今回の企画展を通して、酒田市民の皆さんには、市の鳥である「イヌワシ」をはじめとする豊かな自然に興味を持ってもらえたのではないかと思います。

※ アクティブレンジャーの活動の様子は、以下のアドレスよりご覧になれます。

<http://tohoku.env.go.jp/blog/>

地球温暖化対策普及啓発事業

「再生可能エネルギーであつたまろう！」
「エコな暮らしの見学会と勉強会」

東北地方環境事務所は、平成25年2月11日、仙台市において、「再生可能エネルギーであつたまろう！」の見学会と勉強会を開催しました。

近年、家庭における温室効果ガスの排出量が増加する傾向があります。

そこで、省エネや環境に興味のある一般市民及び事業者を対象に、地球温暖化対策につながる具体的な行動、実践を呼びかけるために見学会と勉強会を実施しました。



◆ 薪ストーブ見学会

見学会の参加者は19人で、仙台市内の住宅を訪問し、太陽光発電施設、太陽熱温水機及び薪・ペレットストーブを見学するとともに、実際に使っている住民の方から感想をうかがいました。

勉強会では、専門家による太陽光発電や薪ストーブを使うライフスタイルの事例紹介のほか、東北芸術工科大学の三浦准教授から、バイオマスエネルギーを利用する意義についての海外の事情などを講演していただきました。

「なっ得！」 発見！エコフォーラム

東北地方環境事務所は、平成25年2月3日、仙台市で開催された、「ダメだっちゃ温暖化」宮城県民会議主催のフォーラムに出展しました。

同イベントは、平成22年度まで開催されていたものが、23年度は東日本大震災の影響により中止になり、今年度、復活したものです。

当事務所は、「あかり未来計画」のパネル展示等により、家

環境NPO等 ビジネスモデル策定事業



「環境NPO等ビジネスモデル策定事業」は、環境保全を図りながら地域社会の活性化に資するビジネスモデルを創出し、実現可能性の検証等を通じて事業計画を策定することを目的に、環境省が平成21年度から進めてきました。東北地方環境事務所管内では、

庭の照明を高効率の機器に交換することが温室効果ガスの削減につながることをPRしました。

フォーラムでは、こどもエコ



◆ 熱心に聞き入る来場者



◆ ペオ氏のユニークな講演

NPO法人日本の森バイオマスネットワークによる「被災地の自然環境や人的資源を活用する環境教育事業」と、NPO法人東鳴子ゆめ会議による「温泉資源と里地里山資源を有効に活用するプラットフォームづくり事業」の2件が採択され、ビジネスモデル策定に向けた実証事業に取り組んできました。

平成25年2月27日にはEPO東北において本年度事業計画報告会が開催され、採択団体がこれまでの成果を報告するとともに、アドバイザリー委員から助言をいただきました。

クラブ活動発表会、宮城県自然エネルギー等・省エネルギー大賞表彰式と受賞者の取組発表、そのほかにスウェーデン出身の環境コンサルタントのペオ・エクベリ氏の講演が行われました。

※ 環境NPO等ビジネスモデル策定事業は、以下のアドレスよりご覧になれます。

【EPO東北ホームページ】 <http://www.epo-tohoku.jp/NEWS/eponews/12/0227.html>

東北地方環境事務所の業務予定（平成 25 年 4 月～6 月）

月日	時間 (予定)	内 容		場 所 等	担 当 課 等
4. 19	9:00～ 12:00	奥入瀬溪流 クリーンハイキング	奥入瀬溪流石ヶ戸から子の口まで散策しながら、水門開放前で水量の少ない溪流兩岸のゴミを回収、清掃します。	奥入瀬溪流 石ヶ戸休憩所	十和田自然保護官 事務所（松山）
4. 27	8:00～ 15:30	スノーシューウォーク ※乗鞍岳	猿倉温泉から南八甲田乗鞍岳（標高 1,450m）まで登山します。どこでも自由に歩ける堅雪の春山と八甲田の眺望を満喫します。	鳶温泉駐車場	十和田自然保護官 事務所（松山）
4. 27	9:00～ 12:30	浄土ヶ浜春めぐり	春の訪れを感じながら、浄土ヶ浜を散策する。	浄土ヶ浜園地内	宮古自然保護官 事務所（深谷）
4. 29	9:30～ 14:00	〈雪上ハイキング〉 八幡平山頂早春の カンジキハイキング	カンジキをつけて八幡平山頂付近の厳冬期を乗り越えたオオシラビソの樹林を観察します。雪の時期限定の自然観察会。	八幡平パーク サービスセン ター	鹿角自然保護官 事務所（福原）
5. 5	10:00～ 13:00	アワビ貝で クラフト作り	宮古の貝を使ったクラフトをとおして、海や自然について関心をもつ。	浄土ヶ浜ビジ ターセンター	宮古自然保護官 事務所（深谷）
5. 11	9:00～ 14:00	〈雪上ハイキング〉 ベコ谷地ハイキング ～残雪のブナ林探鳥会	芽吹き前の雪のブナ林を通り、春を感じながらキビタキ・オオルリ・キツツキなど、野鳥のさえずりを楽しむ探鳥会。	八幡平ビジター センター	鹿角自然保護官 事務所（福原）
5. 12	9:30～ 15:00	〈ハイキング〉 乳頭ブナの森 新緑ハイキング	新緑のブナ林の野鳥のさえずり、花々を楽しみながらツアールの森を抜けて鶴ノ湯峡、鶴ノ湯温泉までのハイキング。	休暇村 乳頭温泉郷	鹿角自然保護官 事務所（福原）
5. 25	10:00～ 13:00	三陸復興国立公園 記念イベント第 1 弾 八戸クラフト体験	三陸復興国立公園に加わった八戸市の南部裂織を使ったキーホルダー作り。	浄土ヶ浜ビジ ターセンター	宮古自然保護官 事務所（深谷）
6. 22	8:30～ 16:00	月山トレッキング	初夏のさわやかな風を感じ、植物を楽しみながら月山をトレッキング。	宮古市 重茂半島	宮古自然保護官 事務所（深谷）
6 月 中旬	未定	黒崎仙狭を訪ねるみち 自然観察会	岩手県陸前高田市黒崎の自然歩道を歩きながら、ニッコウキスゲ等の初夏の植物を観察します。	黒崎仙狭 駐車場	大船渡自然保護官 事務所（久保井）

環境省東北地方環境事務所

〒980-0014

仙台市青葉区本町 3-2-2 3

仙台第 2 合同庁舎

電話:022 (722) 2870 (代表)

FAX :022 (722) 2872

電子メール: REO-TOHOKU@env. go. jp

(リサイクル、有害廃棄物輸出入関係、地球温暖化対策、石綿健康被害等に関すること)

電子メール: TOHOKU@env. go. jp

(国立公園、エコツアーリズム、自然再生、野生生物、外来生物等に関すること)

東北の自然

十和田八幡平国立公園



湖面に映る山並み（十和田湖）



大沼(鹿角市八幡平)

陸中海岸国立公園



震災後も確認された希少魚イトヨ（大槌町）



オオワシ

伊豆沼鳥獣保護区



ベニマシコ（伊豆沼）

仙台海浜鳥獣保護区



シロチドリ（蒲生干潟）